

夢だより 風だより

四月号からスタートした「夢だより風だより」は、町長が徒然想っていること、考へていることを書き記し、皆さんにお伝えするコーナーです。このコーナーに関するご意見、ご感想がございましたら町企画課へお寄せください。

□

三月十六日、高根沢町国際交流協会主催日本語講座閉幕式に出席した。開講から五年、週二回、年八十四回の講座で、平成十年度は、八カ国五十二名の皆さんが受講されたという。八名の講師はすべて、ボランティアとして協力いただいていたとのことであった。

受講生の挨拶が式の終わりにあった。南米からの女性は、日常会話はなんとかできても漢字が読めないと告げたとき、周囲の人達の視線に悔しい思いをしたと話された。

また、フィリピン出身で、家庭を持ち、三人のお子さんを育てている女性は、子どもたちの宿題をみてあげたり、学校からの通知を読めるようになりたいと勉強をはじめ、少しずつ分かるようになつたことが嬉しい、と感激の面持ちで話された。そして、受講生の皆さんすべてが、この講座を開設した国際交流協会と町当局への感謝を心いっぱいに伝えて下さったが、それを聞いている私の心中には、受講生に対する感謝の気持ちが一杯に満ちてくるのを押さえることができなかつた。

ベストセラーになつた「五体不満足」という本の中で「目の前にいる相手が困つていれば、なんの迷いもなく手を貸す。常に他人よりも優れることを求められる現代の競争社会のなかで、僕等はこういつた当たり前の感覚を失いつつある。助け合いができる社会が崩壊したと言われて久しい。そんな『血の通つた』社会を再び構築しうる救世主となるのが、もしかすると障害者なのかもしない」と著者の乙武洋匡君は書いている。

言葉の壁を前に懸命に生きる皆さんを高根沢町はどのように受け入れることができるのか、本当に血の通つた地域社会はどうあるべきなのか…。

皆さんが勉強する以上に、町自分が、そして私自身が皆さんに多くのことを教えられている。言葉や肌の色、出身や身体的精神的機能の違いによつて人間の価値を判断しない町づくりの方向を皆さんは教えてくれている。久しぶりに人間のすばらしさを感じた夜であつた。

結びに、講座をボランティアで支えて下さつてある先生方の名前を記して感謝にかえたい。

花澤庄治（東町南区）
齋藤兆司・久子（桑塙）
野澤克子（石末）　杉本　渡（花岡）
見目道子（中阿久津）　大森敬子（氏家町）
志渡博子（宝石台）　—敬称略—

深深的感謝